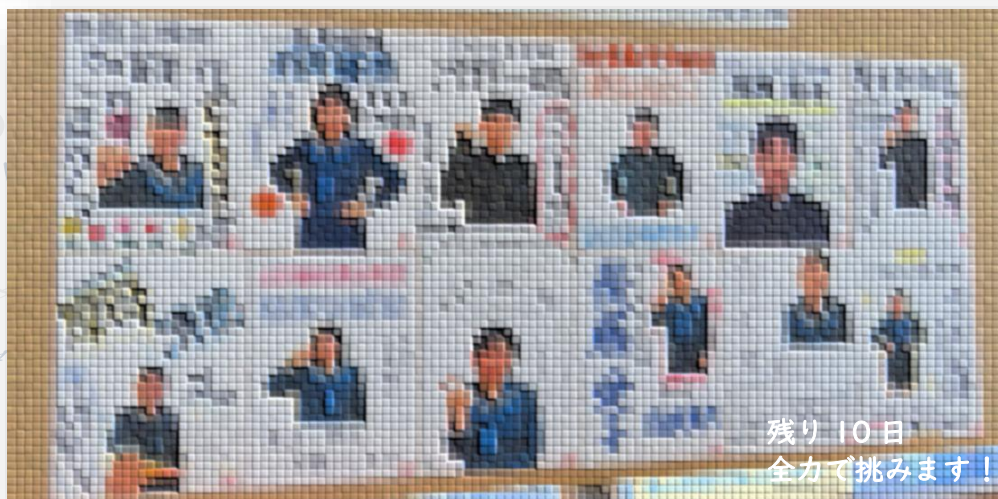




わかむぎ

No.8 令和5年11月21日 発行/古屋正樹



～生徒会選挙 真っ只中～

令和5年度の生徒会役員選挙の活動が始まっています。10月中旬から選挙管理委員会を中心に取組はスタートしており、先週13日には、立候補者のポスターが掲示されました。同時に、朝の玄関前の呼びかけや学級への訪問も始まり、今まさに「選挙月間」となっています。

ドキドキしながら毎日を送っている12名の立候補者。立候補に至るまでには、きっと大きな**葛藤と覚悟**があったことでしょう。それでも、最後は「挑戦したい!」「こんな学校にしたい!」と押原中の未来を思い描き、希望に胸膨らませ、自らの「したい!」を原動力に挑戦しているのだと思います。また、各立候補者を支える責任者や応援者、仲間の存在は大きく、立候補者の支えであり、安心できる拠り所となっています。こんなバックアップ体制にも**温かさ**と**力強さ**があります。

そして、1年生から3年生までの36名の選挙管理委員会メンバー。昼休みや放課後に集まっては選挙事務に勤しんでおり、選挙がつつがなく進むように活動全体を支えています。どんな活動でもそうですが、必ず**縁の下の力持ち**がその活動を支えています。今回もその力は大きく、学校全体の支えとなっています。

大人の世界では、今年初め、県知事選を皮切りに統一地方選が行われました。本校の生徒会選挙も主権者教育を意識した新たな取組を導入しています。熱心な選挙運動に確実な選挙事務、子どもの選挙と侮ることなかれ!大人の選挙に負けない活動が、ここ押中にはあります。





季節は、秋から冬へ・・・



今月 14 日、山梨県内は今シーズン一番の冷え込みとなり、甲府で「初霜」と「初氷」が同時に観測されました。先月 5 日に、富士山で初冠雪が発表されたと思ったのもつかの間、あっという間に富士山の雪は消え、例年になく暖かさが戻ってきました。今月初めには、晩秋とは思えないほどの暑さを感じる日もありましたが、10 日頃を境に、季節は一気に冬の気配となりました。校庭の木々は紅葉する間もなく、早くも落葉し始めています。

暦の上では、8 日に立冬を迎え、確かに「冬の気配が始まる頃」となりました。しかし、13 日に吹いた冷風・強風は尋常ではなく、準備ができていない心と体は不意を突かれたようで、手荒い「冬の到来」となりました。生徒の制服姿も一気に冬モードとなり、いよいよ冬本番が近づいているように感じます。

季節は立冬(11/8)を過ぎ、22 日には小雪(11/22)を迎えます。小雪とは、二十四節気でいう雪が降り始める頃のことです。まだ、積もるほど降らない時期であることから小雪といわれるようになったそうです。「もう雪?」と思われがちですが、二十四節気は、今の暦とは若干ずれるところがあり、体感する気候とは合わない名称も多くあります。とはいえ、季節感を味わうには、趣深い言葉であることにかわりはありません。

季節はいよいよ冬。これから、「大雪(12/7)」「冬至(12/22)」「大寒(1/20)」といった、冬を代表する名称を耳にすることが多くなります。年末を前に慌ただしい日々の中ではありますが、日本特有の四季折々(冬)の風情を感じたいものです。近年は、温暖化の影響からか、真冬でさえ甲府盆地で雪を見ることはほとんどなくなりました。私が子どもの頃は、この昭和町でも、年に数回は必ずまとまった降雪があり、小さなかまくらや滑り台を作ったことを覚えています。とても楽しかった記憶です。しかし、子どもの頃にうれしかったはずの「雪」が、いつの間にか(苦)となってしまったのは、果たしていつの頃からなのでしょう。



学校の様子



実り多き秋。今月も充実した学校生活となっています。

